

24 首都圏在住総合健診受診者における心血管系疾患発症とインスリン感受性、高感度 CRP を含めた危険因子との関連

研究代表者名：久代登志男

共同研究者名：高橋敦彦

施設名：日本大学医学部総合健診センター

目的

首都圏在住者における従来の動脈硬化危険因子と高感度 CRP (hs-CRP) およびインスリン抵抗性との関連を調べる。

方法

総合健診を受診し、同意の得られた 21~69 歳（ベースライン時 45.3 歳）の男女 1112 例を対象とし、4 年目のデータの追跡を行う。繰り返し調査は、BMI、腹囲、血圧、脈拍数、総コレステロール(TC)、LDL コレステロール (LDL-C)、HDL コレステロール (HDL-C)、トリグリセリド (TG)、空腹時血糖 (FBS)、HbA1c、クレアチニン、BUN、尿酸 (UA) (空腹時採血)、高感度 CRP を解析する。

また、繰り返し調査データとして、食事調査 (BDHQ) および身体活動度調査 (JALS 標準問診票) を行った。

追跡調査は、定期健康診査、人間ドック（総合健診）受診、郵送、電話により行った。

成績

2007 年度に繰り返し調査のデータが得られたのは、966 例 (86.9%) であった。今年度収集したデータは、BMI $23.7\text{kg}/\text{m}^2$ 、血圧 $122.4\pm 17.9/74.7\pm 12.8\text{mmHg}$ 、脈拍数 $72.5\pm 11.1\text{bpm}$ 、空腹時血糖 $100.1\pm 24.0\text{mg}/\text{dl}$ 、HbA1c $5.5\pm 0.9\%$ 、総コレステロール $209.0\pm 36.7\text{mg}/\text{dl}$ 、LDL コレステロール $123.1\pm 32.7\text{mg}/\text{dl}$ 、HDL コレステロール $61.2\pm 15.7\text{mg}/\text{dl}$ 、トリグリセリド $113.4\pm 79.9\text{mg}/\text{dl}$ 、尿酸 $5.9\pm 1.4\text{mg}/\text{dl}$ 、クレアチニン $0.86\pm 0.30\text{mg}/\text{dl}$ 、BUN $14.9\pm 4.0\text{mg}/\text{dl}$ 、高感度 CRP $0.10\pm 0.24\text{mg}/\text{dl}$ であった。繰り返し調査データとして、食事調査および身体活動度調査のデータを得たのは 821 例 (73.8%) であった。

脳卒中（脳梗塞）2 例 (0.18%)、心筋梗塞 1 例 (0.09%) のイベント発生が確認できた。死亡例はなかった。

退職と転居などにより、参加同意の撤回、あるいは追跡ができなかった例は累計で 14 例 (1.3%) であった。

統合研究への貢献の状況

本コホートは、首都圏在住者（職域）を対象としている。対象者の多くは定期健康診査、人間ドック（総合健診）を繰り返し受診しており、血液、心電図などのデータ集積を行っている。加えて本年度は全体の 73.8% に食事調査および身体活動度調査を繰り返し施行した（最長 4 年間）。統合研究事務局の求めがあれば、食事調査、身体活動度調査とあわせて、血液データなどのデータを提出することが可能である。現在、このコホートに対しては、追跡と空腹時インスリン、高感度 CRP を含めた繰り返しデータの収集に専念しており、独自の研究は行っていない。